

硬式テニス部がOB会を設立 翠巒体育会へ加入



硬式テニス部OB会顧問
塚越 究 (73期)

入会のご挨拶

テニス部顧問をしております塚越です。昨年度の翠巒体育会総会で関係各位のご理解をいただき、新たに翠巒体育会への入会が認められ大変うれしく思っております。伝統ある高崎高校の運動部の中にあつては、硬式テニス部は創部二十年とまだまだ日の浅い部活ではありますが、チルデンとの戦い(翠巒の群像参照)で有名な偉大なる大先輩の清水善三氏を輩出し生徒手帳に「庭球の

歌」が載っている高崎高校で、晴れてOBの方々にも存在を認めていただくことができ光栄に存じます。

さてこの度OB会の発足ということで、いろいろな資料をあたり短いながらも硬式テニス部の歴史を調べてみました。そうしたところ昭和五十四年の高新聞の総体結果の欄に「二年目にしてベスト8」という硬式テニス関係の最初の記述がありました。が、どうやらこれは「同好会」になってから二年目ということのようでした。翌五十五年には県総体で団体戦準優勝、個人戦シングルスの部で林君が優勝し、秋の高前定期戦では初参加初勝利を挙げた記録があります。五十六年の生徒会誌「群馬」21号の硬式テニス会報「かざぐるまNo.2」中には硬式テニス同好会より部昇格の申請がなされている記事が載っており、さらに五十七年の「群馬」22号には運動部として部活動報告(新人戦ダブルス第3位、シングルスベスト8)が掲

載され昭和五十六年度生徒会予算も硬式庭球部一万一千円とありました。これらのことから昭和五十二年頃に硬式テニス同好会として活動を始め、その成果が生徒会にも認められて、高運動部の正規の部活として活動を開始したのは昭和五十六年(1981年)のことと思われます。その後当時の顧問山口富士生先生(現グラランドFテニスクラブ社長)の指導のもと、高高テニス部が大健闘する時代が到来します。昭和五十八年の県総体では齋藤・長谷川組(88期)が個人戦ダブルスで優勝、翌五十九年には県総体で団体戦第3位、個人戦ダブルスで左近・山口組(84期)が優勝しインターハイに出場するなど、「高高テニス部」ここにあり」とばかりに大活躍しました。その後も友田・関組(88期)、嶋田・森下組(90期)などが県総体やインターハイ県予選で第3位になるなど健闘しました。

りとコート整備にかなり努力をいたしました。その後故古川功校長にご尽力いただき、コートもフェンスも見違えるほど整備され、高体連の公式戦でも使用できるほどになりました。

赴任当時のコートはそんな有様でしたが、部員の心意気とテニス技術は高く、さすが高生だと思心したのであるを覚えております。前年度の「高前定期戦」で負け、かなり悔しい思いをしたようで、気持ちよく新しい顧問を受け入れてくれました。どうすれば試合に勝てるのかを真剣に聞き、伝統の観音山「風車コース」、丸山団地「テニス部コース」、清水寺コースなどを走り体力精神力を養い、技術練習に汗を流しました。その甲斐もあり翌年(平成四年)には、インターハイ県予選ダブルスで岸・川原組(92期)が決勝まで進み準優勝、平成五年に今井(93期)・板橋組が県総体と新人戦ともに準優勝、平成六年には県総体団体戦(新井、板橋、鈴木、山田、津久井)で初優勝し、夏には板橋(94期)がシングルスでインターハイに出場、平成七年高見澤・上村組(95期)準優勝、平成八年大島・原田組(96期)準優勝、平成十一年度にかけては酒井・新井組(99期)が新人大会、県総体で二連覇優勝を果たすなど、高高テニス部の歴史に新たなページを書き加えることができました。

私が、母校高崎高校に赴任したのは平成三年の春でしたが、当時すでに校舎裏の「吉野コート」はなく、昔プールであった場所に六面のコートがありました。うち四面は軟式テニス部が使用しコートも手入れが行き届いていたのですが、硬式テニス部が練習していたコートはかなり傷んでいてひどい有様でした。テニスのライン以外にも体育の授業で使うためのバレーのラインが縦横に何本も引かれているわ、雨が降れば一面水溜りになるわ、コートサイドは草茫々のそんな状態でした。赴任した当初は、練習の合間に内緒(?)で徐々にバレーのラインテープを剥がしたり(釘が出ていて危険だった)、コートに土を入れ、ラインを張り、草をむしり、ネットやフェンスの穴を補修した

今年も新入部員三十四名が新たに加わり部員数六十一名となり、運動部の中ではサッカー部と並ぶ大所帯となりました。まだまだ歴史の浅いテニス部ではありますが、翠巒体育会のメンバーとして伝統ある高崎高校の益々の発展に寄与していきたいと存じます。今後とも宜しくお願いいたします。

特別寄稿

私が高々に在学した昭和五十四年から五十七年頃は、高々運動部は県内において非常に活躍していた時代で、文武両道で名声をあげました。その頃は、ラグビー部が花園に出場したり、サッカー部やバスケットボール部、軟式庭球部なども全国大会出場。その他水泳、陸上などの個人種目でも県内屈指の選手がおりました。

私が所属した野球部も、先輩方は県大会で常に上位に進出しておりました。そういう先輩方から良い影響を受け、五十六年春に悲願の選抜甲子園大会初出場を果たすことができました。実力からすれば今までに



「甲子園にて石川・星陵高と対戦した時の高々唯一の1得点(滑り込んでいるのが私です)」

甲子園出場がもたらしたもの

にも有名な甲子園常連校であり、

あと一步のところまで涙を飲んで来られた多くの先輩方が私たちのチームより遙かに強かったと思いますが、勢いというものは恐ろしいもので、あれよあれよという間に県大会、関東大会を勝ち進んでいきました。勝因は監督やコーチの熱心な指導と、同級生十人のチームワークの良さであったと思います。そして、私たちの二年後輩も、春の関東大会で準優勝を飾るという時代でした。

当時、高々野球部は五十五年秋の県大会で第一シード校として優勝し、引き続き水戸市で行われた関東大会で三勝し、決勝で千葉・印旛高に敗れたものの、準優勝という成績を取めました。そして、翌五十六年春の選抜甲子園大会に関東三校の中の一校として選ばれたのです。甲子園初出場が決定した後、大先輩である福田勉夫元首相と中曽根康弘行政管理庁長官(後の首相)がわざわざ高々に来られ、激励してくださいました。今でも強烈に覚えています。

甲子園では石川・星陵高と対戦しました。私は五番レフトで出場しましたが、応援の皆様の期待に応えられず、残念ながら11対1で負けてしまいました。星陵高は全国的



群馬県議会議員 岩井 均 (81期) 野球部

こちらは初出場。試合が始まる前から気持ちで負けていました。同じ高校生という意識をもっと強く持ち、試合に集中していれば、結果は変わっていたかもしれません。

先日、高崎ビューホテルで行われた高々同窓会や「高朋云」という高々卒業の県庁職員の出席しました。そこで校歌と応援歌、翠巒を皆で歌いましたが、愛校心が自然と高まります。その時の話題の一つが甲子園

出場の件です。寄付をいくらしたとか、甲子園まで応援に行つたとか、そういう思い出話をお聞きして、想像以上に多くの先輩方にお

世話になり、そして心に深く刻み込んでいただいていることを改めて知って、私は大変うれしく、ありがたく思いました。

その後、私は筑波大学に進学し、硬式野球部に入りました。そして、大学院を修了後縁あって、中曽根元首相の東京事務所勤務することになりました。そして、東京で十年間、秘書として様々な政治活動を体験してきているうちに、政治への関心が高まってきました。政治の果たす役割は社会的に非常に重要である。政治は私たちの身の回りの全てに関与するものであり、いずれ将来

地元群馬県の発展と活性化のために役に立ちたいと考えてようになりました。

その思いと地元の方々の熱意が一致したのが平成十年秋でした。それから、選挙までの半年間、無我夢中で町内を歩き、同志の方々と共に後援会作りや座談会などを始めました。そして、十一年四月の群馬県議会議員選挙に碓氷郡区から立候補し、当選させていただきました。三十五歳での当選は県議五十七名中、三番目の若さでした。

私が県議員にさせていただいたというのも、高々で甲子園に出場したことが大きな要因となりました。甲子園出場により、大学で野球することになったのであり、中曽根事務所に入る時の大きなPRになったのです。ですから、野球を続けて来られたことが私の力となっていると思います。関係いただきました皆様、心から感謝をしております。

県議員という職を一年余り経験して、私は職務の厳しさと共に大きな充実感を味わっています。この一年間で地元からの要望や陳情は結構達成できたと思えますし、議会活動も意欲的に取り組んでいます。そして、議会や地元において改革、推進しなければならぬ課題も徐々に見えてきました。これからは若さと行動力で県政に新風を吹き込んでまいりたいと存じますので、皆様のご指導とご支援を心からお願ひ申し上げます。

翠巒体育会の益々のご発展と関係者の皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

シリーズ寄稿 [VOL. 1]
OB会の足跡

History of
剣道部

「良き友得たる剣道」

剣道部OB会長

横田 茂 (55期)



出稿にあたり歴代の剣道部担当の部長先生、並びに講師の方々のご理解で出来ました。剣友会も事務局を中心に恙無く運営されてます。尚、本文は私の高校在席時の懐かしかったこと、楽しかったことのみを書かせていただきます。お許しください。

私は戦後の混乱期に何も考えることなく時に流されていた小学生であったと思う。中学生時代は物の豊かなくて、又その上に新しい学区制が敷かれ第三中学校の一回卒業生と、何か目の前に新しい世界が開けてくるような明るい予感を感じさせるときでしたので、素直に時代の流れを受け入れられ、順応性が身についたときでした。幸い希望した高崎高校に入学でき新しい道を踏み出すことが出来ました。

文武両道の精神の基、先輩の活躍を知り身の引き締まる思いで入学式に臨みました。ことを思い出します。

昭和二十八年の高崎高校の運動部はラグビー・バスケット・野球・テニス・バレー・サッカー・柔道・水泳・卓球部が活躍されていたが、剣道は愛好会であった。

後日、愛好会創立のエピソードを故郷中先生が話されたことですが。

先生就任間もない、ある日、二年生の自習監督の時間に「このクラスで剣道をやっている者はいるかね」と問いかけてみたところなんと五人の生徒が手を上げ「高崎公園内の武徳殿にて信濃屋の古閑先生(故古閑範士)に教えてもらっています、古閑先生はやさしいけど、オッカナイ先生です」とまじめな声で答える生徒の顔が印象的であったのと、すばらしい剣道指導者がいらっしやる事に意を強く持たれたそうです。

放課後、数名の生徒が職員室まで来て、剣道を教えてほしいと願って出てきたことに感激して(網中先生も二十才大変張り切っていたときだったので)「一緒にやるかと答えてしまった」とうれしげに当時のことを思い出されて話されていた事がなんとも印象深かった。

この一言が戦後の高崎高校剣道愛好会の発端です。防具集めから、護国神社の境内を道場に見立てての野稽古と大変苦労されたそうです。その後講堂での練習(放課後卓球部との共同利用が始まったそうです)。

入学時には愛好会であったためか、他の運動部より勧誘が目立たなかったが、同期の笠井が中学の時から武徳殿にて剣道をしてきたことに影響されてか、講堂の更衣

室を覗き込むことになり、運良く(?)小林先輩(33期卒業)の目にとまり、一時間近くも正座させられて、強引に入会希望ありと判断され、翌日からの練習に参加することを約束させられたのが、私の剣道の始まりです。

網中先生と小林先輩とは「あみちゃん」、「けいちゃん」と兄弟のようなお付き合い、それもそのはず愛好会創設者のおふたりですが、性格はかなり違うように感じられました。アンちゃん先生こと網中先生は生徒に自分のありのままの姿を見せて新しい世界に興味を持たせてくれる楽しいヤンチャ先生、一方小林先輩は私たちの我儘(サボリ)を見過ごすことなく首根っこを押さえても練習に駆り出す練習の鬼先輩でした。

お二方のご尽力で昭和二十八年の後期に剣道部に昇格し、部費が支給され階段下でも部室が与えられて全員大ハシヤギ、その上、同期の五人(笠井、真木、柳沢、松本、横田)が選手と選ばれ、このときから二年間楽しい剣道部生活が始まりました。

先生、先輩の指導のお蔭で、練習も楽しく、仲間の絆もでき、その上に県内屈指の剣道場、武徳殿にての本格練習にも参加させていただき、ますます意気上がる私達でした。県内他校との練習試合も許可され試合回数が増えるに従って、練習も工夫されサインプレイによる頭脳作戦もとりいれられる様になりました。サインは基本の技ですが連続技の小手、面を一本目・小手、胴を二本目として練習に励みました。

そんなころ、埼玉県浦和の市制記念行事として、埼玉・群馬・栃木・三県高校剣道大会のニュースが入ってきました。初めて

の県外遠征「最初の腕試しだ、一丁挑戦するか」の先生の一声で全員大喜びで浦和へ乗り込み、善戦、善戦、又、善戦と決勝戦に駒を進めることが出来た。「さあ決勝だ、どんなことがあっても勝つぞ」と先生に気合をかけられ、私達選手は緊張。先鋒、次鋒が負け、夢を託した中堅が幸い一本勝ち、つづく副将、大将が勝ち、優勝。手に汗する試合であったので、大優勝杯を手にした時の全員喜びは大きかった。高崎に帰ると真直に古閑先生に報告に伺う、先生は私たちの手を握り締め「よくやった、よくやった」と褒めていただきました。この事が後々の励みの基となりました。

昭和二十九年より公式戦が始まり、群馬県大会優勝、上位入賞を果たすことにより、千葉県柏市での関東大会、又、昭和三十年の茨城県香取社にて行われた関東大会に二年連続して出場出来ました。この二年間は網中先生の絆つくりのカリキラムにより心身ともに鍛えられ充実した生活がおくれたときと思います。すなわち、礼に始まり礼に終わる武徳殿道場における練習。夏・冬の厳しい合宿練習、その合間に行われる、真夜中の観音山試胆会、からす川原での紅白風船割合戦、魚捕り、護国神社にての野稽古

高崎高校

剣道部OB会
剣友会

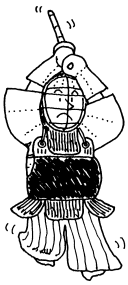
会長 横田 茂 (55期)

等々。自由で素直な発想での楽しい企画節度ある行動で、楽しい仲間作りを教えられました。

このときの教えが基になり、卒業後も一期一会を大切に「より絆を太く、長く」を合言葉に、後輩指導をかねて、合宿に参加して練習合間の真夜中の肝試し大会を企画してたのしみ。また、一泊どまりの赤城山並びに、白樺湖の野稽古旅行等に参加して、後輩とも絆ができ、その成果が剣友会の結成となりました。その後も、良き指導者、よき友(先輩・後輩)を得て、良き時代を楽しく過ごした部員たちが、各々の輪(絆)を作られ卒業と同時に、キャプテンが中心になって先輩の輪と鎖のように繋げる努力が実り、すばらしい会に作り上げていただきました。

最近、私たちの代の輪に「都津の会」と名をつけ、理解者・網中富美江夫人を交えて毎月楽しい語らいの酒席の会、春には山菜取り、夏は佐渡の海水浴、秋はハイキング・きのこがり、正月は餅つきと年間を通して絆を深めております。語らいすぎれば、いつも高校時代の楽しかった剣道の話や、現在も修業し昇段され、子弟の育成に、女子剣道家との絆も出来たことを楽しく語る後輩と、昨今の社会情勢を愁うことなく、プラス思考で過ごし、肩組み合って校歌を歌い、次回の楽しい計画を立てています。

「絆」よき友を授かった、高校時代に感謝いたします。



History of 剣道部

COLUMN スポーツと医療

私は、群馬町の県央病院で整形外科医師として、骨折、腰痛、手足の痛みなどケガの診療をしています。また、スポーツドクターとしてメデイカルチェックをおこなったり、ラグビー協会メデイカルドクターとしてラグビー公式試合での救護活動に参加しています。

最近、高校ラグビーの試合に行きまして、選手がケガをすることがあります。

私達の頃と比べて、選手の体格が大きくなりました。技術も向上してきました。しかし、それに筋力や持久力がついていないように感じます。したがって集中がとぎれた時に、危険を予感させる状況下でのケガが増えてしまっているようです。

父兄の応援する人数、声援がビックリするほど多いことも感じますが、過保護とも窺えることもあり、ケガ人が搬送するのは多いに役立っているようです。

日常診療で思うことは、新人部員の活動が始まる四月、五月、ハードな合宿の前後、大会の直前にケガの選手の受診が増えるようです。急激な運動量の増加、長時間の練習での使いすぎ、痛みをおしのコンディション不良が原因となっているケースが多いようです。

ラグビーにケガはつきもの、とは言うものの、ケガのないことが、

ベストです。ドクターの立場からいうと、ケガをしたときは、たとえ軽度であっても慎重に対処し、完全に症状がとれてから復帰させるくらいの余裕をもった対応をとるべきです。しかし、試合数の過密、メンバーが足りないことや逆に試合に出ないとポジションを奪われてしまうことなどで選手は無理をしまいがちです。そのため関節にゆるみがあり、靭帯に慢性的炎症が続いたり、筋肉に血がたまりシコリとなったりして痛みを繰り返し、フォームをくずしケガが悪化してしまっています。

私のケガに対する治療方針は、すべての練習を禁止とするのではなく、治療部位に休息を与えつつこの期間中に筋力や心肺機能が低下しないように休息中の強化訓練メニューを選手と相談し、計画、実行させることです。そして最終目標の大会に照準をあわせてコンディションをととのえさせていきます。

目標とする大会が治療中に間近に迫ってしまった場合は、競技選手と相談の上、やむをえずケガの再燃覚悟でテーピング、痛み止めの注射をして競技に出場させることもあります。

私が整形外科医をめざした理由の一つは、腰痛です。高校二年の

夏に主将を指名され、「頑張るぞ」と思った矢先、腰痛におそわれ、走ると強い痛み、無理して走ってさらに悪化、見学と休息、あせり、痛みが軽減するとすぐ練習再開、走ると強い痛み、無理して走って再び悪化と満足なプレーができないうちに迷惑をかけてしまいました。

高校、大学合わせて九年間のラグビー競技生活の中で、私自身たくさんのケガを経験しました。ケガをした選手に、自分のキズだらけの手足や変形した関節を見せたり、自分のケガの昔話などしてあげると選手は妙に安心して治療に協力してくれるようです。

四〇歳をすぎ、時々うざく古キズとつきあいながら、選手にケガ人ではないことを祈っています。



県央病院 整形外科医師
ラグビー協会メデイカルドクター
清水 透 ラグビー部 (73期)



コートに、24人
TENNIS 齋藤英敏(83期)

昭和五十六年の三月、高々が初めて春の甲子園大会に出場した時、私は家で高々入学の準備をしながら、テレビ観戦をしていた。そのような盛り上がりがあったムードの中で、「入学したら硬式テニス部に入ろう」と密かに決意を固めていた。

四月、入学式。いよいよ、硬式テニス部の練習を見学に行くことになった。同じ中学の仲間は、一人もいない。心は、不安だらけであった。やる気だけは、誰にも負けないつもりであったが、やはり心細かった。

今はプールとなつている場所(吉野コート)に、この年初めて、同好会から「部活」に昇格したばかりのテニス部の先輩達が、楽しそうにボールを打っていた。その中に群馬県A級選手で、全国大会にも常連となつ

ていた林先輩もいた。

いよいよ、練習が始まった。新人のメニューは、まず観音山(約三キロ)を一週し、柔軟体操をした後、腕立て五十回、腹筋五十回、素振りフオー・バック共に百回、その後は二人一組になつて乱打である。結構ハードな練習メニューであったが、それでも二十四人の一年生が正式に入部を果たすこととなった。後で聞いた話であるが、先輩達も人数を減らそうと、若干厳しいメニューを考えていたそうである。その先輩達も、あまりの人数の多さに半ばあきらめ顔で、「まあ・・・俺らの練習を見ていれば、そのうち上手くなるよ・・・」と云うことであつた。

二・三年生だけでも十人以上いるのに、さらに二十四人も入つては、コートでの練習なんか望めない。先輩達も、ボール出しを何度かしてくれたが、毎日というわけにもいかず、半年はコート外での練習であつた。それでも、だんだんと友達もでき、その友達と一緒に土・日などは、朝から夕方まで一日中練習をした。

私は高々テニス部で、「自ら考え、自ら積極的に行動する」ということを学んだ。その甲斐あつてか、三年生の春には念願の、全国大会出場を果たし、コートも一面から、伝統ある軟式テニス部の隣に二面も入るようになった。

想い出は尽きない、テニス部であるが、「自ら考える」、「自ら動く」という伝統は、とても良かったと思う。まだ

まだ歴史の浅い硬式テニス部ではあるが、「自主性」という伝統を忘れずに、より発展



TENNIS

していくことを期待している。

高々の硬式庭球

TENNIS 清水郷平(91期)

自由豪快——校風そのままの部活動だつた。テニス部は歴史が新しいこともあり、いい意味で自由で顧問の先生も我々の自治に任せてくれた。日々の練習から、合宿、試合の仕方まで自由今になると勝手気ままともいえるが、なので、自分で練習し、自分で研究し、うまい人を真似て、お互いアドバイスしあつた。つまり、与えられるのではない、自発的な部活であつたと言えよう。そんな環境下二十人以上いた同期も本当にテニスが好きで、強くなりたいものだけが残つた。

練習といえば、組織だつていないため自分の理想を求めることに熱中していた。弾丸サーブに磨きをかける人、スピン系のショットを究める人、強烈なフオーハンドばかりでなるべくバックハンドを使わない人、それぞれのフオームも独創的で、遠くで試合をやつていても一目でわかるものばかりだつた。試合といえば、応援スタイルも独特であつた。テニスは紳士的なスポーツなの

で応援も拍手くらいが基本であるが、異様な盛り上がりを見せる応援風景特に共学校が相手だと、よく大会本部に放送で注意されたものである。奔放さゆえの弱点は、基本的な戦術が分かつていなかったことであらう。練習でも一本のスパーショット、自分の気持ちいいショットを目指してプレーしているの、試合になると確実に返球してくる相手に、簡単なミスで自滅してしまいがちだつた。駆け引きができないので、技術で勝つて、試合に負けるということが多くあつたように思う。何事も「自由」というのは、難しいことを思い知らされていた。

あれから七年後。一昨年夏、片品村の民宿「かしゃ」に同期が集まつた。高校時代生徒だけで合宿を張つた場所である。民宿の女将さんも、先生なしで合宿にきた我々を寛

株式会社大陸不動産

代表取締役 **山口正敏**
(卓球部・58期)

高崎市宮元町一〇八番地
 TEL〇二七三三二一四〇三一

バレーボールOB

高橋税理士事務所

税理士 **高橋浩生** (78期)
 TEL〇二七三三三六三三〇三

掛川司法書士事務所

司法書士 **掛川 稔** (82期)
 TEL〇二七三三三二四一七五五二

えてくれていた。朝から日が暮れるまでボールを追った日々、決して強くなかったが、自分達で考え工夫し、楽しんだ高々テニス部。そこには部活動のあるべき姿があったのではないかと思っている。

卒業する年には塚越先生をお迎えし、数年後テニス部もインターハイ出場など黄金期を迎える。我々は、ちやうど高々テニス部の変革期を過ごしたのだから。

あのとときの絆、そして・・・今の自分
TENNIS
新井宏樹(94期)

高校時代最後の群馬県総合体育大会。僕等は団体戦優勝という最高の勳章を手に入れた。

高校時代というのは青春時代である。世間で言われている。その青春時代というのは、未来への不明瞭な希望や何処からともなくこみ上げる不安、そして、現在の自分への失望で一杯である。そして若さゆえの未熟さ、未完成さも手伝って、それらが新しいエネルギーとなって彷彿するときである。それは新しいものが生まれるときでもある。新しいものが生まれるとき、その人、その物は創造性に富み、エネルギーに満ちあふれている・・・。

自分は高校時代、日々部活動に明け暮れていた。来る日も来る日も考えることは部活動のことばかり。一步一步進む大人への道をどうにして進んでいいのかわからず、何をしていいのかわからず、ただひたすら持て余すエネルギーを部活に注ぎ込んだ。

そこにはともに本気になる仲間がいた。そこにはともに本気になる先生が



平成4年 高前定期戦に勝利して

いた。ともながむしやらかな日々を重ねるたびに、知らず知らずのうちに、僕等の間に絆が

築かれていった。深く、そして硬い絆が築かれていった。その絆はさらなる新しいエネルギー

を生み出し、僕等に見えない力を授けた。そして、時間をかけて築きあげた絆を胸に高崎高等学校硬式庭球部の仲間たちはあの輝ける勳章を勝ち得たのだ。

それとともに、この『絆』が将来への不安を消したり、明るい希望を抱かせたり、自分に自信をもたせてくれたりしたのだと思う。そして、その『絆』が新しい『自分』をつくってくれたのだ。あのころがあったから今の自分がある。あのころの『絆』があったから今の『自分』がある。

高校を卒業し、それぞれは歩み出した。しかし、それぞれの道は違ってはもひとりきりではない・・・。

これからもあのととき築いた絆を大切にしていきたい。

AUTO CENTER
CASTLE
SINCE 1977 TAKASAKI

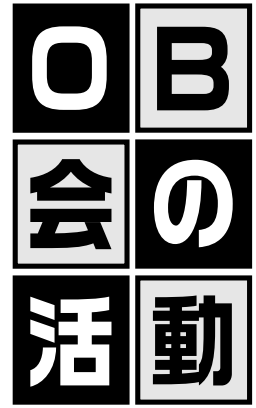
株式会社
キャッスルオートセンター
欧州車・米車・新車・中古車販売

石田 光成
(硬式テニス部・91期)
〒370-1201
高崎市倉賀野町4677-1
TEL 027-347-3298
FAX 027-346-7774

日本マスタック工業株式会社

代表取締役 **木村 洋**
(ラグビー部・59期)

〒576-6288 高崎市中居町四一四一
TEL 027-353-3355
FAX 027-353-3358



卓球部OB会は、毎年恒例となつている新年会をもつて、総会を兼ねさせて

いただいたしております。現在新年会の通知を約二〇〇名に郵送させていただいておりますが、毎年三〇名前後の参加者により、新年会を開催しております。

今年の新年会において「月に一度は卓球をやろう!」といった提案が出され、現在「マツヤ」(61回 高見沢 隆)様のご協力のもと、丸山団地内の「マツヤ」研修所にて、毎月第二王曜日の午後、親睦を兼ねた卓球練習会が行われています。

もちろん、翠巒体育会恒例のゴルフ大会には、団体優勝を目指すべき精鋭が、多数参加しています。

夏ともなりますと、現役卓球部の合宿に有志が参加、指導に当たっています。



平成十一年度のOB会の活動は、行事的な活動も特にはなく、年度を無事終了

致しました。その他OBの活動では、翠巒

クラブが近年の現役生の活躍に負けじと、三年ぶりにクラブカップの優勝杯を手に入れました。過去十一回の優勝経験のある翠巒クラブといえども、平均年齢三〇半ばをすぎ体力的には苦しい試合が続きましたが、強豪群馬教員クラブに、2対1のフルセット、精神力でもぎ取った優勝でした。ここ一番の勝負強さ、集中力は翠巒健児の魂というべきものでしょう。現役生にも受け継いでほしいものです。

その後の国体県予選でも優勝し、八月にクラブカップ全国大会(石川県、国体関東予選(深谷市))に出場しました。結果は初戦敗退でしたが、内容的にはほぼ互角の戦いでした。

今年もまた翠巒クラブ中心の報告となつてしまいましたが、来年の報告ではOB会のことと詳しく、また翠巒クラブのさらなる活躍を報告致します。



平成十一年度は高々バスケットボール部OB会にとつては記念すべき年でした。

まずは、創部七十周年を迎え、祝賀会として、七月三日(土)に高崎ビューホテルにて、

OB会総会を兼ねた歴代監督を囲む会を開催しました。清水貞保先生(30期)、鈴木武

文先生(51期)、川島尚武先生(49期)、現監督立見賢治先生をお招きして、各時代の教え子達と往時の活躍を自慢し合いました。

また、その会は同時にインターハイ出場を決めた現役の激励会ともなり、いまだ県下の強豪の名をほしいままにしている名

門高々バスケット部の健在をも確認し合いました。

さらには、父母会の多大な協力も得て、OB会より現役に遠征用のバスを一台寄贈することもできました。

この場をお借りして、インターハイ出場につきまして御協力賜りましたOB、関係者各位には、厚く御礼申し上げます。



平成十一年度応援部OB会の活動をご報告いたします。

昨年の九月二十九日にゴルフコンペ、今年の一月十三日に高崎市内の魚仲において新年総会を開催しました。OB会員のみならずご案内等を送付しておりますが、ともに参加数

あまり多くないので、一人でも多く参加できる環境づくりに努めています。

他に翠巒祭に行われる応援部リーダー公開祭時、および野球の夏予選時には、現役の援助をしております。

新年の全体同窓会や高々運動部顧問の先生方を交えた懇親会の席で、校歌や応援歌「翠巒」のリーダーをさせていただいております。私たちのリードで、集まった同窓生OBの方々が声高々に斉唱し、志気を高め、結束を新たにする光景を見る度に、「高々生の誇り」を実感致します。

これからも、社会で活躍される同窓生OBの方々にエールを贈り続ける存在でいられるようなOB会でありたいと思うとともに、伝統ある高崎高校応援部OB会の更なる発展を目指していきたいと思つて

おります。



平成十一年度を振り返り特筆すべきは、元OB会長であり、現群馬県接骨師

会長である桜井弘氏が、永年の医療活動の功績により厚生大臣表彰を受彰されたことです。同じ柔道を志した先輩が立派な功績を残され認められたということは後輩として大変誇りに思います。

また、さらには桜井先生の道場の門下生であり、75期の柔道部OBである吉原成哲氏が、群馬町に脳神経外科を中心とした吉原クリニックを開業しました。桜井弘氏の柔道を通じた精神が医療現場に様々に息づいているものと思います。

十二年の正月三日には、定例の総会並びに新年会が開催されました。それに先立ち高々道場において、OB・現役の合同稽古および対抗戦が行われました。現役選手も、大学生ら若手OBに圧倒されぎみでありました。現役選手には、一層の努力を期待し、目標に向けて進んで欲しいと思つて

ソニー生命
群馬支社
ライフプランナー
山崎 和廣
(ソフトテニス部・68期)

ソニー生命保険株式会社
群馬支社
高崎市八島町5
イノウエビル6F
TEL027-324-4881



本年も一月二日の初蹴会と、二月十九日の総会、新年会が無事行われ、九名の九十九期卒業生を迎え、総勢五一五名の所帯となりました。

翠巒クラブは、群馬県社会人サッカーの三部リーグで、ミドル翠巒クラブは高崎サッカーリーグで頑張っています。シニア翠巒クラブが誕生するのも、そう遠くない事でしょう。楽しくサッカーができ、必ず試合に出場できますので、参加希望の方は御連絡をください。

昨年は台風の豪雨の為中止になってしまった高々、前高サッカー部OB会交流試合を、八月十二日に高々グラウンドで行います。是非ともOB会員には、奮って御参加頂き、真夏の日差しの中で楽しんで頂きたくお願いいたします。

最後に、現役サッカー部への物心両面に渡る御援助を心からお願ひ申し上げ、現役の練習や試合に応援の程宜しくお願ひ致します。



創部二十年。歴史は浅い部活ですが、私顧問をしている間にも多くの部員

が卒業していきました。お盆やお正月には帰省したOB達と杯を傾けていました。OB会が組織されていないため、毎年六月に開催される翠巒体育総会後の懇親会には、テニス部顧問ということで出席させて

いただいているものの、OBもおらず酒もそれほど進まなかったのも事実。テニス部の指導をして十年目になり、高き生活も残り少なくなってきました。また卒業生達からもOB会を作ろうかという話も出てきたため、自分がいる間にも思い、昨年の総会で翠巒体育会への入会を申請したところ、関係各位の温かいご理解をいただき入会が承認されました。

その後テニス部の歴史を調べたり、年度ごとの部員を確認したりとOB会作りを進め、なんとか形ができてきました。貴重な情報をいただいたテニスショップ「グリップ」の織茂さん、「グラウンドF」の山口富士生先生、五十嵐誠一先生、浜名和也先生、左近晃志先生、役員を快く引き受けてくれた齋藤英敏氏、石田光成氏、並びに各代の部長、部員の皆にこの場をお借りして、心より御礼申し上げます。



昨今剣道の人気は衰える一方で、全国的に少年剣士の数が年々減少している

ようです。たいへん残念なことです。県内でも剣道の伝統校でさえ新入部員が余り入部せず、困っているそうです。本校でもここ二年間部員数が少なく、夏季及び春期合宿では、OBの参加者の方が部員より多いという状態が続いていました。しかし今年には新入生が十名入部し、道場が活気づいてきました。

恒例の活動としましては、一月三日の新年の初稽古にOBが一五名参加して下さい

いました。現役とOBとの試合では、今年もOBに軍配が上がりました。夕方には、ビューホテルで総会及び新年会が行われました。また夏季および春季校内合宿の際にも、大勢のOBにご指導いただきました。ここ毎年のように、剣道の昇段審査の合格者が出ています。昨年度は吉野宏一さん(五八期)が七段に合格されました。この三月には、高々の剣道部の黄金時代を築かれた別府先生が、桐生西高校の校長を最後に退職されました。今後ともいろいろな面から高々の剣道部にご指導ご支援いただきたいと思ひます。



軟式庭球がソフトテニスになり、ルールも国際ルールとなつて、本当に様変わりしましたが、OB会は相変わらず和気

あいあいと続いています。毎年お盆の土曜日、お昼頃から現役との交流テニス大会をやっています。最年長は毎年参加されている柳さん(51期卒)で、まだまだ現役選手です。現役高校生との対抗戦でもOBの往年の好プレーや珍プレーが頻発し、大変和やかな雰囲気盛り上がりしました。

78期卒の浦野先生が監督に就任してからのところ現役の成績も好調でOB会としても大変喜んでいきます。

夜には長谷川ホテルで総会と懇親会を行い、旧交を温めました。

今年度も八月にまた開催しますので、会員の皆様の参加をお待ちしております。



今回は近年の収支を掲載し、水泳部OB会の活動規模を御推察頂くこととします。収入のほとんどは、一人五〇〇〇円の年会費です。

	収入 (前年繰越を除く)	支出	次年度 へ繰越
6年度	—	—	75,484
7年度	115,292	120,750	70,026
8年度	90,000	100,000	60,026
9年度	149,164	130,520	78,670
10年度	62,000	134,105	6,565
11年度	86,108	85,630	7,043



前年の野球部OB会総会において、川鍋前会長の後任として、会長に就任いたしました。どうか宜しくお願ひいたします。

OB会としては、会員相互の親睦を図るのは勿論のことですが、学校当局、後援会、選手保護者会とも連携、強調して現役選手がベストを尽くせるよう物心両面から支援活動をすると共に高々野球部の

伝統を大切に守っていききたいと思っております。

今年、現役選手の飛躍の一助になればと、中村(56期)、窪庭(58期)両氏を講師に迎え、OB会主催の研修会を開きましたが、こういった側面からの支援活動を行うことに、より現役選手には甲子園への夢を追い続けて欲しいと願っております。

八月には前橋高校OBと対抗戦も計画しており、今年には本校が当番校で城南球場でナイターで行います。毎年すばらしい熱戦を展開し、大先輩から若手まで往年のプレーぶりを彷彿させます。

この他、OB会の行事として、現役選手激励会、OB会ゴルフコンペ等を実施しております。



ラグビー部OB会は、本年一月八日高崎ビューホテルにおいて新年総会を開催。昨年度OB会活動および決算報告ならびに本年度事業予定が発表され、すべて承認された。また、総会に先立ち恒例となっている現役対OB戦が行われ、白熱したゲームが繰り広げられた。三月一日には卒業式のと、三年生部員に対して、木村OB会会長よりOBとなった証として鷹をあしらった錦糸のエンブレムを贈呈し、卒業を祝った。

ラグビー部OB会の今年度の主な活動予定としては、六月十一日に元東芝府中ラグビー部監督の向井氏を迎え、豊岡グラウンドで現役部員への技術指導を予定してお

り、さらに八月には木村会長が菅平合宿を訪問し、現役部員への戦術的な指導および激励を行うなど、花園出場に向けてOB会挙げての支援体制強化を計画している。



昨年行われた小林馨先生の群馬県スポーツ功労賞受賞祝賀会の席上、これを

機に、「小林先生を囲む会」を毎年行うことが提案され、今年は、六月〇日に開催することとなった。十六名ほどが参加の予定である。

近年、陸上部OB会の全体での活動が停滞している中、職場でも若手から中堅的な立場となりつつあるこの年代が、会の全体的な発展を担っていかなくては...と痛感する今日この頃であるのだが、それなりに社会における責任も重くなっており、日々忙殺され、なかなか思うままにならない。

例えば、自分が現役高二の夏合宿に、前々会長の広田さんと前会長の横尾さんが激励に見えてくれたのが、陸上部OB会の発足の端となったと聞く。自分は現在、中学校の陸上部顧問をしており、浜川競技場などで現役部員と接する機会もある。他にも、何人もの小林先生の教え子仲間が陸上の指導者として活躍している。彼らと手を取り合って、現役生の支援に力を注ぎたいと決意した。



平成11年度 翠巒体育会収支計算書

自平成11年4月1日 至平成12年3月31日

Table with columns: 科目, 金額, 摘要. It details income and expenses for the sports association, including membership fees, tournament costs, and administrative expenses.

財産目録

至平成12年3月31日現在

Table with columns: 科目, 金額, 摘要. It lists assets such as cash, deposits, and real estate.

会計監査 丸山 功一 廣田 誠四郎

第9回翠巒体育会ゴルフ大会レポート 団体戦は野球部優勝

個人戦は中里弘(野), ベスグロは堤康高(卓)氏 第9回翠巒体育会ゴルフ大会は8月26日(木)53名の参加によりローズベイクントリークラブで行われました。野球部が大挙11名の参加で他部を寄せつけず圧倒的な強さで優勝しました。

●団体戦

Table showing team golf results with columns: 順位, クラブ名, グロス, 合計.

●個人戦

Table showing individual golf results with columns: 順位, 部, 氏名, グロス, HC, ネット.

●個人グロス

Table showing individual gross scores with columns: 順位, 部, 氏名, アウト, イン, グロス.

先輩がんばっています。

バレーボール部

吉田 淳二



バレーボール部は伝統のある部です。現在は部員数十九名で、塚本先生、宮川先生、関口先生の熱心な御指導の元、その伝統に負けぬよう日々練習に励んでいます。

日々の練習は二時間半で、休日には遠征を実施しています。その中で各々が役割を自覚し、高い集中力と強い精神力を意識することで、最大の効率を目指しています。

昨年度の総体より一年間、ベスト8という成績に甘んじてしまいましたが、必ずやインターハイに出場できるよう、全員が一丸となって頑張りたいと思います。

最後に、OBの方々の御力添えは欠かすことのできない要素ですので、これからも今まで以上に御支援、御指導をお願い申し上げます。

サッカー部

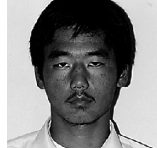
森田 直樹



我々サッカー部は、三年生十五名、二年生二十三名、一年生二十五名の計六十三名でインターハイベスト8まで導かれた坂田先生をはじめ、丸山先生、塩原先生の熱心な指導、保護者会の陰の支えの下、部員一人一人が確かな自覚・高い目標を持ち、熱心に、積極的に、日々練習に励んでいます。

ラグビー部

野辺 亮太郎



近年では、途中足踏みをした時期もありましたが、持ち前の底力でカバーしてきました。そして今後の目標は、文武両道はもちろんのこと、インターハイを勝ち取り全国へ出場し、また、練習などを通じて個々の技術・人間性を向上していくことです。

OBの皆さんの築き上げた伝統にさらに磨きをかけられるよう努力したいと思っております。これからも応援よろしくお願致します。

我々ラグビー部は農大二高の黄金時代にピリオドを打つべく、日々練習に励んでいます。

今年度は新人戦、総体と、良い結果を残せませんでした。今年の部員は、有能な選手が多い反面、個性の主張が強く、チームのまとまりを欠きました。これが一番の敗因です。

しかし、逆に言えば、それさえ解決すれば今年のチームはとても良い仕上がりになるはず。残す大会はあと一つ。ラグビー部の伝統と、我々選手のプライドにかけて、他のどのチームより強い、勝利への気持ちを抱えて、新たな伝統を築きます。

「高校生のラグビーなんてものは勢い八割、スキル二割、ラグビーが気持ちでどれだけ変わるか、見せてやれ。」ある高校の監督の言葉です。今のラグビー部のモットーです。

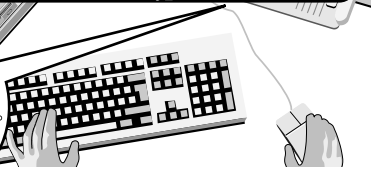
トピック・ニュース

TOPIC NEWS

翠巒体育会 ホームページ開設

<http://www5.wind.ne.jp/t2suiran/>

ホームページに使用できる文字数は8文字までなので、上記の名前にしました。「タカタカスイラン」と呼んでください。



翠巒体育会のホームページを作成してから、約一年が経ちました。ほとんど知られていないと思いますので、この場を借りて紹介させていただきます。左図が翠巒体育会トップページです。翠巒体育会



の運営報告、活動記録／予定、ゴルフコンペ情報等がご覧になります。

左図のように各部の活動報告のコーナーも用意してあります。新年会などの集会の予定を連絡するのにも便利です。是非ご活用ください。現在は卓球部とバレーボール部についてだけ掲載が載っております。ホームページ上での掲載の希望があれば、すぐにリンクを張らせて頂きますのでご二報ください。

● ホームページに関する連絡先
t2pinpon@mail.ne.jp

ホームページの見方(初級編)

1. パソコンを購入する。
2. インターネットに接続する。
(プロバイダーとの契約をする)
3. WWWブラウザを利用しアドレスに
<http://www5.wind.ne.jp/t2suiran/>
と半角英数字で入力する。
4. 翠巒体育会のホームページが開く
※詳細はインターネットに詳しい人まで。

軟式野球部

新井 崇弘



高々軟式野球部は月、水、金の放課後八千代球場で練習をしています。我々の代に引きつがれて間もないころはエラーをするのが怖かったのですが、最近では「皆がカバーしてくれる。」という信頼関係を各々がもてるようになり、伸び伸びと野球ができるようになってきました。その結果週三日しかない練習の中でも野球技術の向上を図ることができていることを各自が認識し、先日の試合では「楽しく野球をしよう」と声をかけ合えるまでになりました。それは野球をする上で勝敗以上に大切なことなのではないかと思っています。

ソフトテニス部

岩佐 祐介



暑い日射しとコートのは熱気で真っ黒け、我々ソフトテニス部は今日も白球追いかけてやる気、気合いに満ちています。練習の中で得るもの数多く、それらはみな宝です。前回二位に甘んじて、悔やし涙を流すとも、現在部員二十六、先輩方の作られた、この部を継いで「進化」させ、浦野・柴崎両先生の御指導のもと上目指し、関東制覇を狙っています。

今年は関東大会出場を目標にひとつひとつ勝利をつかんでいきたいと思っていますので先輩方の応援をよろしくお願いいたします。

卓球部

塚越 正徳



我々卓球部は三年生四名、二年生十名、一年生六名で日々個々の技術向上に努めています。練習場所や練習時間は他校と比べるとそれほど良いという環境ではありませんが、そんな中で、部員一人一人がそれぞれの課題をしつかりと把握し、限られた時間の中で能率よく練習しています。

昨年の県高校総体では一昨年勝ち取った団体戦ベスト8を再び達成する為に全力を尽くしましたが、惜しくも館林高校に敗け達成することができませんでした。ですから、新体制になった今、念願のベスト8を達成する為に、個々の技術向上だけでなく、部全体の団結を高めていく方針で練習に取り組んでいます。これからも好成績が残せるよう頑張っていきたいと思いますので御声援よろしく願います。

山に登っている時、いつも考えるのは、なぜ僕は

山岳部

長谷川 至洋



その先に見据えるものは唯一つ、インターハイという頂上。高い山ではあるけれど、日頃から、頂く御支援暖かく、背に感じつつ必ずや、たどり着こうと思っています。これからは先輩方の御支援、先生方の御指導をどうぞよろしく願います。

山に登っている時、いつも考えるのは、なぜ僕は

重い荷物を背負って苦しみながら登っているのだろうか、ということだ。そこに山があるからでもなく、苦痛を求めているわけでもない、結局、よくわからない。ただ、山での生活が楽しいことは確かだ。テントを張り、料理をつくり、寝袋にくるまり、星空は美しい。夏に行った北アルプスで頭上に広がっていた青い空とゆっくりに流れる雲、遥か彼方に見えた槍ヶ岳の姿を僕は忘れることができない。



しかし、物質文明に甘え切った現代人に山岳部の活動はなかなか理解してもらえず、現在、部員は三年生四名、二年生〇名、一年生一名という状況である。たまには、忙しい現実を脱け出して山に登るのもいいと思う。

スキー部

市川 勤



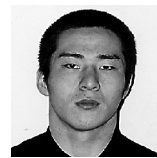
我々スキー部は、九名で活動しています。冬が本番のスキー部ですが、オフシーズンにどれだけ自分を鍛えられたかが結果となって出る競技です。現在は、ランニングや筋力トレーニングによって全身を鍛え、インラインスケートで感覚を養い、来たるべき季節にそなえています。目標は関東大会出場、そしてインターハイ出場です。そのため、夏にはザウスに練習へ行くなどできるだけ多く滑る機会を

目標は関東大会出場、そしてインターハイ出場です。そのため、夏にはザウスに練習へ行くなどできるだけ多く滑る機会を

設けています。また、冬休みには強化合宿を予定しています。競技スキーは一ミリの争うスポーツです。部員全員で力を合わせ、精神力、体力ともに向上させてゆきます。応援よろしく願います。

柔道部

櫻澤 正己



我々柔道部は、三年生二人、二年生五人、一年生五人の計十二人という少数ながらも、日々稽古に励んでいます。御指導いただいている鳥居先生は、高々柔道部の大先輩であり、現在は顧問をして三年目になります。先生の一人一人の個性を見極めて教えていただく練習は「短期集中」という高々らしい充実したものです。今年度に入り、その成果が表われ昨年の雪辱を見事に晴らし、個人・団体共、関東大会に出場することができました。そして今、関東大会・IH予選に向けて頑張っています。

先輩方が築き上げた伝統に、さらなる飛躍を目指し今後とも努力しますので、よろしく願います。

土地と建物の情報
HOUSE LAND
 企画・編集・発行
株式会社 スパン
 藤井 正弘(応援部・81期)
 高崎市緑町1-11-10 ☎364-1555

硬式野球部

田野晃彦



現在、硬式野球部は三年生十八名、二年生十八名、一年生十七名の計五十三名で、「機動力を生かした攻撃的野球」を高々野球として掲げ、甲子園出場という明確な目標を持って日夜練習に励んでいます。

チーム内でのポジション争いによつてチーム力を高め、自らの力で背番号を奪い取るという意識を持ち、短時間で内容の濃い練習となるよう日々心掛けています。

夏の大会までの約二ヶ月間、大須賀監督、毒島部長、田村仁先生、樽見先生の指導を信じて、チーム一丸となつて「最後の夏」に向かつて突き進んで行きたいと思ひます。

父母会、OB会、後援会の皆さんには大変お世話になっていますが、これからも宜しくお願い致します。

剣道部

原田知也



我々剣道部は三年二人、二年四人、一年十人、計十六人で、日々力を合わせて練習に励んでいます。

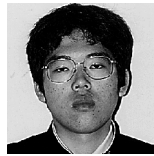
今年是一年の人数が多く、チーム全体のムードも盛り上がっています。戸塚先生の指導のもと一人一人が自覚を持ち、練習に参加しているの、各々の実力もかなり向上し、団結力も出てきました。また、今年は秋田、栃木への遠征も実施し、校内の練習では経験できない経験を通し、試合の運び方

や技術について学びました。

ここ数年はなかなか上位にくいこめない年が続いていますが、最後にひかえているインターハイ予選では是非、団体ベスト4にくいこむよう、高々剣道部の「短期集中」の練習を生かして、がんばりたいです。

弓道部

田中隼人



弓道部は現在三年生三名、二年生十九名、一年生十九名となり心配していた部員の減少がなくなりました。

練習では指導してくださる先生がお忙しい、特に一般の講師の方もお招きしてないので主に先輩が先輩にその技術を伝えるなどお互いにアドバイスをし合つて練習しています。

また、学校の練習場は屋根や壁がないので天候に左右されやすく、照明設備もなくなりと不便なので、学校から自転車で約三十分程度の場所にある市の浜川運動公園内の弓道場で主に練習しています。

今年度の成績はほとんど上位入賞などがなく他の高校に押されがちでしたが、部員数も増え、部の士気も高まっているので、これからの大会に向けて頑張りたいと思ひます。

硬式テニス部

栗原聡太



テニス部は、現在三年生十名、二年生十六名、一年

生三十三名、計五十九名で活動しています。

今年度の総合体育大会では、シングルス、ダブルスともにベスト16で終わってしまいましたが、団体戦では第4位と健闘し、現在インターハイ予選を目指して練習に励んでいます。

目頃の練習では、試合形式の練習を多くとり入れ、より実戦に近い緊張感を持った練習を心がけました。そのせいか、大会では予選通過者数では、西毛の中でも一位、二位を争う成績が残せました。

今後は新人戦で団体・個人で好成績を残し、来年度の高校総体では、団体・個人ともに関東大会出場、インターハイ予選の通過を目指して、部員一同一丸となり頑張っていきたいと思ひています。



水泳部

水野剛志



我々水泳部は現在総勢十七人で日々練習を重ねています。

主な活動内容は、五月下旬から学校のプールで泳ぎ始め、七、八月中に行われる関東予選大会、高校総体、新人戦の三つの大会に向け、六月中旬一週間かけて合宿を行ないます。

高崎高校

野球部OB会

会長 飯島 勇(57期)

慈眼院

高崎百衣大観音・高野山別格本山
関東八十八ヶ所霊場一番札所
橋爪良恒(バスケット部・44期)
橋爪良真(バスケット部・75期)
TEL 〇二七三三二二二六九
FAX 〇二七三三二六六一三二

我々は、それぞれの大会に一人一人目標を持ち、その目標を乗り越えるために一生懸命練習をします。さらに、シーズンオフには河川敷にて、球技などの筋力トレーニングをして、週二、三回、浜川の温水プールを利用して練習をしています。

我々は、練習をすることによりお互いを刺激し、より自分の力を高めていこうと考えています。部員一同一生懸命頑張っていますので、これからも御支援、御声援よろしくお願ひします。

応援部

静野俊介



我々、応援団は現在十一人で日々練習を重ねて

います。先輩方から我々四十九代目に引き継がれて以来、生徒会集会での校歌、翠巒の斉唱、甲子園野球地方予選での応援、定期戦での応援といった行事に取り組んできました。我々の代になってから、私自身の力不足もあり、団員をうまくまとめられないこともありました。他の団員の協力と顧問の植原先生の助言のおかげで、団員をなんとかまとめられるようになりました。

今年度も、定例リーダー公開祭をはじめ応援団の活動を披露する場がありますが、それらに恥じないようにさらに鍛練をします。また、団員の増員を行っていく次第です。最後になりますが、先輩方の御支援をよろしく願います。

陸上競技部

中山陽石



我々陸上部は、インターハイ総合優勝の経験を持つ高橋先生を中心に、関根先生、田中先生、諸先輩のサポートの下、競技力・精神力・人間性の向上に努めています。

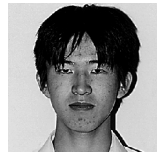
近年は、全国大会や関東大会に入賞する者もいて、部全体のレベルも向上しており高いレベルの大会で活躍することも不可能ではなくなりました。今後は、個々の意識レベルを更に向上させ、自分の殻を破り、どれだけ新しい次元の世界に入っていくかが一つのポイントではないかと思えます。

最後に、現在の部活動の充実を支えて下さる先輩方、周囲の方々に感謝し、その喜びを力に、総合優勝、個々の目標に向かって頑

張りたいと思えますので、今後も応援を宜しくお願い致します。

空手道部

櫻井知寛



我々空手道部は、現在一年生を含め十六人で活動しています。

今年度は、練習内容を向上させ、新しい練習方法などを組み込み、内容の濃い練習をしています。また、道場に月に二、三回通い、師範である岸先生や先輩に、型や組手の指導をしていただいています。そのおかげで、心身共に鍛え上げられ、昇級審査や昇段審査も順調に進み、大会でもまずまずの技を繰り出すことができるようになりました。それと共に自信をつけることができました。

一年生が多くまだ教えることはたくさんありますが、経験を多く積んで強くなってくれるでしょう。今後も、部員全員の方で技術の向上を目指していきたいと思えます。

バドミントン同好会

大山健太



我々バドミントン同好会は去年度に同好会へ昇格したばかりである。現在の会員数は十五名。練習は第一体育館のコート一面を使用している。・・・はつきり言っ

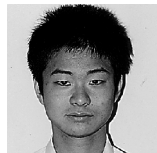
て練習環境は非常に悪い。同好会のため部費も出ない。だが我々はそのハンディをば

ねに練習に励んでいる。

練習は基本的に登校日は全て行う。練習時間は平日四〜六時半までと比較的長い。だが残念なことに未だこれといった結果は残していない。高崎地区の大会ではそれなりに結果を出しているものの、県レベルの大会においては個人戦で、三、四回戦に進出する程度、団体戦は一勝もしていない。だが我々はあきらめることはしない。今はただ一つでも多く勝てることを目指している。

バスケットボール部

小林研五



我々バスケットボール部は、三年生十四名、二年生十一名、一年生十七名でインターハイ目指し、日々練習に励んでいます。

今年の県総体では、樹徳高校に負け、ベスト4という結果に終わり、関東大会出場権をとれませんでした。敗因は前から課題だったディフェンスが完全ではなかったことです。しかし、この敗北のおかげで夏へ向けての明確な目標が定まり、チームの団結力も強まりました。

今年から長年副顧問として御指導していただいた水上先生が前女へ移動となり、新しく関口先生を加え、顧問の立見先生、副顧問の町田先生の御指導の元、またOBの方々をはじめ応援をして下さる方々の期待に応えられるよう、最後の大会を全力で戦いたいと思います。



高崎高校

柔道部OB会

会長 関口 茂樹(63期)

高崎高校

サッカー部OB会

会長 阿久澤 茂(69期)

高崎高校

水泳部OB会

会長 新谷 恭一(54期)

高崎高校

陸上部OB会

会長 横尾 信男(65期)

平成11年度 運動部活動状況

陸上競技部

北関東大会 走幅跳 7 m 24 石野 2位	全国高校混成・長距離群馬県予選 五千m競歩 25分00秒 81 土屋 優勝	学校対抗 棒高跳 4 m 40 稲垣 優勝	走幅跳 4 m 20 梅山 3位	走幅跳 6 m 54 石野 5位	ハンマー投 29 m 66 相川 6位	槍投 50 m 47 石野 5位	48 m 00 高田 6位	四百障 57秒05 北嶋 6位	百障 16秒64 北嶋 5位	八百m 2分01秒61 中山 5位	全国高校総体 走幅跳 6 m 47 石野 落選	五千米競歩 25分06秒42 土屋 落選	新人陸上 棒高跳 4 m 50 稲垣 優勝	三千障 9分47秒95 中山 優勝	関東新人 三千障 9分37秒71 中山 5位	棒高跳 4 m 60 稲垣 5位	三千障 9分37秒71 中山 5位	県総体駅伝 2時間24分16秒 新人駅伝 1時間41分21秒 強化大会 一年の部 八百m 2分04秒17 樋口 2位	五千m 4分15秒26 高橋 3位	五十障 15分57秒99 高橋 優勝	百十障 15秒87 北嶋 2位	四百障 57秒79 北嶋 優勝	一・二・三年の部 千五百m 4分08秒96 中山 3位	棒高跳 4 m 20 稲垣 優勝	4 m 00 高田 2位	3 m 80 梅山 3位
------------------------------	---	-----------------------------	---------------------	---------------------	------------------------	---------------------	------------------	--------------------	-------------------	----------------------	-------------------------------	-------------------------	-----------------------------	----------------------	------------------------------	---------------------	----------------------	---	----------------------	-----------------------	--------------------	--------------------	-----------------------------------	---------------------	-----------------	-----------------

バスケットボール部

関東大会
1回戦 高崎68―56駒大附(東京)

2回戦 高崎40―68取手松陽(茨城)
インターハイ予選

1回戦 高崎149―20万場
2回戦 高崎99―35高北
3回戦 高崎81―28富岡
準々決勝 高崎64―43桐生
準決勝 高崎65―63樹徳
決勝 高崎60―38高商
優勝

強化大会
1回戦 高崎56―80御影工業(兵庫)
1回戦 高崎71―59沼田
2回戦 高崎71―39太東
準決勝 高崎65―64太東
決勝 高崎51―56高商
準優勝

ウインターカップ予選
準決勝 高崎50―78前商
3位

西毛地区大会
1回戦 高崎112―37高東
2回戦 高崎109―16藤岡
準決勝 高崎96―51高北
決勝 高崎68―100高商
準優勝

新人戦
2回戦 高崎92―49高経
3回戦 高崎72―38前工
4回戦 高崎88―73桐南
決勝リーグ
高崎66―43桐生
高崎51―68樹徳
高崎57―59高商
3位

バレーボール部

インターハイ予選
3回戦 高崎2―0渋川
準々決勝 高崎1―2前商
秋季大会
2回戦 高崎2―0桐生
3回戦 高崎2―1館林
準々決勝 高崎0―2桐商
新人大会
3回戦 高崎2―0桐生
準決勝 高崎0―2高北

ソフトテニス部

関東大会
団体
2回戦敗退

個人 中川・大崎組
3回戦敗退
岩佐・山口組
2回戦敗退

インターハイ県予選
2回戦 高崎2―0太東
3回戦 高崎2―1沼田
準決勝 高崎0―2前商
個人 中川・大崎組
5位
中川・大崎組
Aブロック
4位

新人大会
1回戦 高崎3―0青翠
2回戦 高崎3―0吉井
3回戦 高崎2―0太田
準決勝 高崎2―0前商
決勝 高崎0―2農二
2位

個人 岩佐・小佐野組
2位
中川・山口組
5位
木村・吉田組
5位

全国選抜大会県予選
1回戦 高崎3―0高北
2回戦 高崎2―0富岡
準決勝 高崎2―0太田
決勝 高崎0―2農二
4位

卓球部

インターハイ予選
2回戦 高崎0―3沼田
新人戦
1回戦 高崎3―0太東
2回戦 高崎3―1勢多農
3回戦 高崎1―3桐生

ラグビー部

インターハイ予選
準々決勝 高崎11―26前橋
新人戦
1回戦 高崎0―77農二
7人制
準決勝 高崎12―12県央

サッカー部

インターハイ予選
2回戦 高崎2―0太東

3回戦 高崎4―0県央
4回戦 高崎0―2前橋育英
1年生大会
1回戦 高崎1―1太田(PK2―4)
選手権県予選
一次予選
2回戦 高崎3―0太東
3回戦 高崎4―0新島
二次予選
1回戦 高崎6―0伊東
準々決勝 高崎0―2前商

新人戦
2回戦 高崎5―0関学附
3回戦 高崎2―0常磐
4回戦 高崎2―1太田
準決勝 高崎0―1前商

水泳部

関東大会(本戦)
二百個メ 新井
四百個メ 新井
二百個 黒田
四百個 黒田
四百R 新井・黒田・笠原・北村
八百R 新井・黒田・笠原・北村
四百メR 黒田・北村・笠原・柳澤
県総体
二百個メ 新井
二百個メ 新井
四百個メ 黒田
四百個 黒田
四百R 新井・黒田・笠原・北村
八百R 新井・黒田・笠原・北村
四百メR 黒田・北村・笠原・柳澤

二百個メ 新井
二百個 黒田
四百個 黒田
四百R 新井・黒田・笠原・北村
八百R 新井・黒田・笠原・北村
四百メR 黒田・北村・笠原・柳澤

二百個メ 新井
二百個 黒田
四百個 黒田
四百R 新井・黒田・笠原・北村
八百R 新井・黒田・笠原・北村
四百メR 黒田・北村・笠原・柳澤

二百個 黒田
四百個 黒田
四百R 新井・黒田・笠原・北村
八百R 新井・黒田・笠原・北村
四百メR 黒田・北村・笠原・柳澤

二百個 黒田
四百個 黒田
四百R 新井・黒田・笠原・北村
八百R 新井・黒田・笠原・北村
四百メR 黒田・北村・笠原・柳澤

柔道部

強化選手選考会

60 kg級 国原 優勝
櫻澤 準優勝
鈴木 ベスト 8

新人戦

1回戦 高崎2-1富岡
2回戦 高崎4-0中之条
準々決勝 高崎0-3育英 団体ベスト 8

剣道部

高校対抗剣道選手権

1回戦 高崎1-4太田
1年生大会

新人戦

1回戦 高崎5-0中之条
2回戦 高崎0-4樹徳

軟式野球部

全国高等学校軟式野球選手権大会県予選

1回戦 高崎0-11前工(5回コールド)
定期戦 高崎5-0前橋
新人大会兼秋季関東軟式野球大会県予選
1回戦 高崎3-2館林
2回戦 高崎4-5前工(延長10回)

硬式テニス部

インターハイ予選

団体 ダブルス 3位
個人 シングルス ベスト 8
新人大会 シングルス ベスト 8

新人大会

団体 ダブルス ベスト 8
個人 シングルス ベスト 16

空手道部

インターハイ予選

組手 1回戦 高崎1-3中央 7位
新人大会 組手 3回戦 高崎0-4前工

硬式野球部

春季大会

1回戦 高崎10-5渋工
2回戦 高崎1-6桐一
全国高校野球選手権県大会

1回戦 高崎1-0中之条
2回戦 高崎0-7高商
秋季関東大会県大会

1回戦 高崎7-4青翠
2回戦 高崎7-4高商
3回戦 高崎2-3桐商

山岳部

集中登山大会出場

スキー部

インターハイ予選

黒田 GS 14位 SL 23位
宮村 GS 23位
関東予選 黒田 GS 17位 SL 18位
関東大会 黒田 GS 22位 SL 31位
ほたか杯 黒田 GS 13位 SL 12位

バドミントン同好会

インターハイ予選

2回戦 高崎3-1関学附
3回戦 高崎0-3前東
新人戦 団体 高崎0-3伊東

ダブルス 清水・戸塚組 2回戦進出
シングルス 相馬・吉田組 2回戦進出
1年シングルス 清水 2回戦進出
戸塚 ベスト 16
吉田 ベスト 16
松井 4回戦進出
相馬 3回戦進出
小此木 3回戦進出

第35回高校総体成績(12年度)

総合順位 第4位

バスケットボール部

2回戦 高崎10-36市前
3回戦 高崎86-48伊工
4回戦 高崎90-47前南
準々決勝 高崎90-55前橋
準決勝 高崎51-74樹徳 3位

バレーボール部

4回戦 高崎2-0中之条
準々決勝 高崎0-2伊東 5位

ソフトテニス部

2回戦 高崎3-0樹徳
3回戦 高崎2-0吉井
準々決勝 高崎2-1沼田
決勝リーグ 2-1渋川 0-3農大二 3-0前商 2位(関東大会へ)

卓球部

1回戦 高崎3-0安中
2回戦 高崎0-3利商

ラグビー部

予選トーナメント 高崎43-5桐生
決勝トーナメント 高崎66-10富岡
高崎21-57樹徳 5位

サッカー部

4回戦 高崎0-2常磐 9位

山岳部

10位

柔道部

個人 桜沢 2位(関東大会へ) 5位
団体 国原 2回戦 高崎4-1沼田
3回戦 高崎4-0清翠
準々決勝 高崎1-4育英
敗者戦 高崎3-1渋工

剣道部

3位決 高崎2-2高経(内容負)
7位決 高崎4-1常磐 7位(関東大会へ)

軟式野球部

1回戦 高崎4-0前工
2回戦 高崎3-2渋川
2回戦 高崎1-4前西 9位

弓道部

1回戦 高崎3-2桐一
準々決勝 高崎3-10前商 5位

硬式テニス部

個人 清水 優勝
団体 決勝トーナメント進出

空手道部

1回戦 高崎2-3渋川 4位
2-1太田 0-3富岡 3-0育英

バドミントン同好会

1回戦 高崎0-2伊工
1-500m 中山陽 5位(関東大会へ)
中山拓 8位
一〇〇m傷害 北嶋 5位(関東大会へ)
一〇〇m傷害 土屋 7位
四〇〇m傷害 稲垣 1位(関東大会へ)
棒高跳 高田 4位(関東大会へ)
二〇〇m 稲垣 7位
八〇〇m 中山陽 4位(関東大会へ)
樋口 6位(関東大会へ)
中山拓 7位
一六〇〇mリレー 高田 5位
槍投 深沢 8位
総合 6位

陸上競技部

1回戦 高崎0-2伊工
1-500m 中山陽 5位(関東大会へ)
中山拓 8位
一〇〇m傷害 北嶋 5位(関東大会へ)
一〇〇m傷害 土屋 7位
四〇〇m傷害 稲垣 1位(関東大会へ)
棒高跳 高田 4位(関東大会へ)
二〇〇m 稲垣 7位
八〇〇m 中山陽 4位(関東大会へ)
樋口 6位(関東大会へ)
中山拓 7位
一六〇〇mリレー 高田 5位
槍投 深沢 8位
総合 6位



翠 巒 体 育 会 役 員 名 簿

(平成 12. 6. 23)

	氏 名	回	学 校 側 顧 問
会 長	山口 敏郎	58	学 校 長 ・ 桜井 直紀 教 頭 ・ 福田 賢吾 運 動 部 長 ・ 坂田 和文
副 会 長	宗 正一	65	
〃 (剣 道)	川手 昭義	62	
〃 (ラグビー)	◎ 横田 茂司	55	
〃 (バスケット)	◎ 塚越 章洋	58	
〃 (会 計)	◎ 木村 進一	59	
〃 (会 計)	◎ 庭登 志男	72	
〃 (会 計)	藤 義夫	68	
〃 監 査	高 浩生	58	
〃 顧 問	丸 功一	78	
〃	廣 誠四郎	60	
〃	岩 善次郎	64	
〃	岩 武雄	50	
〃	清水 貞由	53	
〃	岡 保重	30	
理 事			
陸 上	◎ 横尾 信男	65	高橋賢作・関根正弘・田中雅徳 田村修一・品川和男 浦野克彦・柴崎浩明 立見賢治・町田 仁・関口博士 塚本泰弘・宮川淳吾・関口穂積 櫻井 清・大野俊彦・長岡秀一 坂田和文・丸山直樹・塩原秋雄 橋本晃一・山口和士 鳥居吉二・木村高己 戸塚泰聖・金井 明 樽見尚人・大須賀誠一・田村 仁 毒島健一 植原政明・萩原弘和 塚越 究・松本正志 柴田 栄・齋藤敬一・丸山直樹 小林政幸・猿谷亮司・丸橋 寛 天野正明・宮崎秀明 中野憲一・工藤正宏 女屋 浩・関口 理 三浦昭久・中村博昭
卓 球	◎ 坂本 正樹	71	
ソフトテニス	◎ 深沢 博昭	57	
バスケット	◎ 根岸 万吉	68	
バレー	◎ 下山 万吉	63	
ラグビー	◎ 丸山 博	68	
サッカー	◎ 橋爪 良真	75	
水 泳	◎ 榊原 一好	79	
柔 道	◎ 佐藤 弘之	81	
剣 道	◎ 岩丸 高明	82	
野 球	◎ 掛川 正志	82	
応 援	◎ 上根 正弘	70	
硬式テニス	◎ 阿久 沢 茂	72	
山 岳	◎ 赤羽 英光	69	
スキー	◎ 清野 哲雄	73	
スケート	◎ 新谷 恭一	74	
弓道	◎ 小此木 勝樹	54	
空手	◎ 関口 茂樹	56	
軟式野球	◎ 東瀬 朝紀	63	
バドミントン	◎ 寺保 正行	69	
	◎ 飯野 政一	69	
	◎ 小池 潤一郎	74	
	◎ 清水 正均	77	
	◎ 小林 功清	69	
	◎ 小堀 賢治	77	
	◎ 秋山 敏志	65	
	◎ 齋藤 英晃	74	
	◎ 左近 光成	83	
		84	
		91	
編集部	藤井 正弘	81	
事務局			
事務局 長	鳥居 吉二	73	
	櫻井 清	81	
野 球	◎ 飯島 勇二	57	
バレー	◎ 菊地 俊	52	

◎ は各部OB会長。

翠巒体育 第十九号
平成十二年六月三日発行
翠巒体育会事務局
〒三七〇八六一
高崎市八千代町二四一
群馬県立高崎高等学校内
☎〇二七(三三四)〇〇七四
制作・発送 (株)スパン

編集委員の一員として、
編集後記を書くよう命を受けて
ましたのでひとこと。
(橋爪・75期)

これらの共通項は、メンバーの現在の住所や職業や思想がいかに違うものであっても、その人格形成に大きく関わったものであることは否定できないでしょう。その意味ではかなり重要でもありません。
当たり前となり、忘れかけたのようになってしまったこの言葉に、多少なりとも感謝をして関心に向け、素直に自分のできる範囲でご恩返ししたいというのが今の心境です。

◎◎ 編集後記 ◎◎
中学生のとき、「憧れの高々」をめざして受験勉強し、運良く合格、晴れて高々生となり三年間運動部に身を置いた青春時代でした。
運動部各OB会にて構成される翠巒体育会を検索するには、「高崎高校」、「運動部」、「OB会」などのキーワードが必要です。